

旭北中学校・上白根中学校の 学校規模に関する説明会報告

発行日：令和元年 8 月 26 日

発行元：横浜市教育委員会事務局
学校計画課

説明会の趣旨

令和元年 5 月現在、上白根中学校は、一般学級の生徒数 131 人、6 学級の小規模校であり、横浜市で最も生徒数が少ない学校となっています。今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。

保護者説明会では、生徒数の推移や小規模校の特性などをご説明した上で、今後、隣接する旭北中学校との間で、上白根中学校の適正規模化に向けて、保護者・地域の代表者等からなる検討部会を設置し、今後の両校の方向性について具体的に検討していくことをお伝えしました。

<開催日時・会場>

◆令和元年 7 月 24 日（水）
旭北中学校 14 時～15 時
上白根中学校 19 時～20 時

◆令和元年 7 月 25 日（木）
上白根中学校 14 時～15 時
旭北中学校 19 時～20 時
※参加者数は各回、50～70 名

1 「小規模校」の特性

「小規模校」（一般学級数で小学校は 11 学級以下、中学校は 8 学級以下）では、保護者及び地域の皆様と連携を図りながら、学校の実情に合った教育活動に取り組んでいるところですが、学校や保護者及び地域の皆様の努力だけでは解決できない課題が生じていることから、学校規模適正化に向けた取組が必要です。基本方針では、適正な学校規模を一般学級数で 12～24 学級（小学校は各学年 2～4 学級、中学校は各学年 4～8 学級）と定めています。

◎「小規模校」の特性

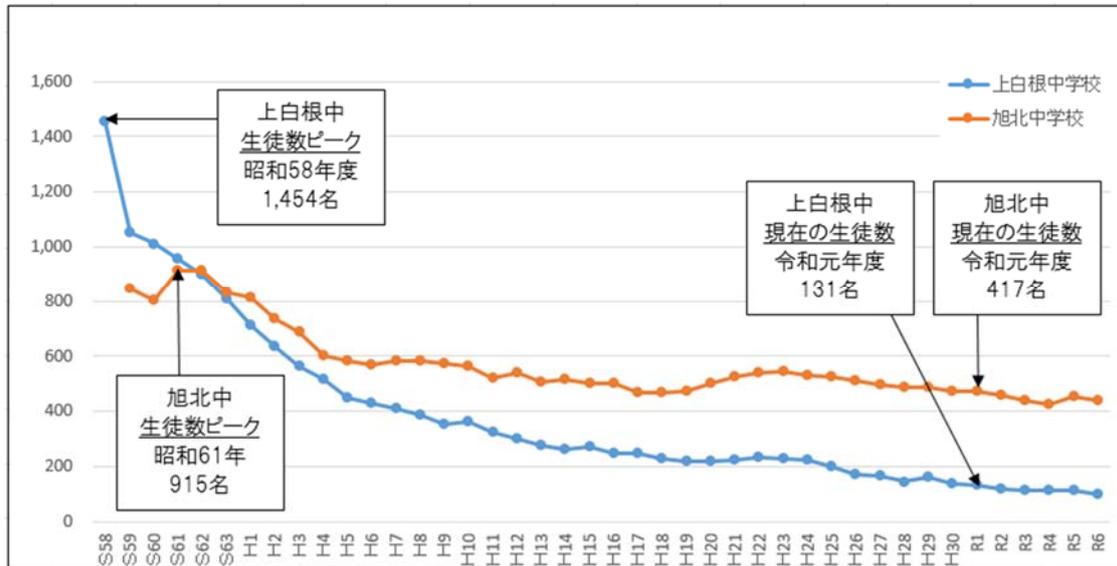
	長 所	短 所
生徒	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士よく知り合うことができ、人間関係が密になる。 様々な学習活動の場で、一人ひとりの良さを生かして、それぞれが活躍する機会を持つことができる。 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス替えのできない学年が生じるため、人間関係などに問題が生じた場合、解決が困難になりがちである。 行動範囲や対人関係が狭まり、多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られてしまうおそれがある。 体育や音楽等の授業における集団学習や、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の行事や集団活動の実施に制約が生じる。また、クラブ活動や部活動の種類が限定される。
教職員	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、個に応じて丁寧に指導にあたることができる。 教員同士のコミュニケーションが密になり、協力体制が取りやすくなる。 教職員間の連携が取りやすく、学校全体で主体的な対応、弾力的な対応がしやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容や児童生徒指導について相談できる機会が減るなど、特に、経験が浅い教員の負担が大きい。 教員が少ないため、代替の教員を立てにくい。また、一人あたりの校務が増える。 中学校では教科担任 1 名が学年をまたいで指導にあたる場合もあり、事務的業務や教科研などの面で負担が大きくなる。
保護者 P T A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの実態を把握しやすいため、学校と家庭との連携が取りやすい。 学校に対する保護者の理解や協力を得やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 会員が少ないため、学校行事での保護者の負担が大きくなる。 P T A 役員のなり手が少なく、固定化しやすい。

2 小規模校対策の考え方 <出典>横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（抜粋）

小規模校の課題を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的かつ効率的な学校経営を行うために、保護者や地域住民と十分に調整を図り、理解と協力を得ながら、通学区域の変更及び弾力化等を行い学校規模の適正化を推進する。

なお、通学区域の変更や弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校の状態が解消しない場合については、学校統合について検討を進めることとする。

3 両校の生徒数の推移



【R1以前】各年度5月1日現在の実数値（一般学級）

横浜市教育委員会調べ

【R2以降】平成 30 年度義務教育人口推計による推計値（一般学級）

4 両校の推計

学校名		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	保有普通教室
上白根中	生徒数	133	131	119	113	114	111	101	16
	学級数	5	6	4	4	4	4	4	
旭北中	生徒数	467	473	457	440	425	454	437	18
	学級数	13	13	13	13	12	13	13	

【H30】平成 30 年5月1日現在の実数値（一般学級）

【R1】令和元年5月1日の実数値（一般学級）

【R2以降】平成 30 年度義務教育人口推計による推計値（一般学級）

5 両校の基礎情報（R 元年度）

学校名	上白根中学校	旭北中学校
開校年	昭和 46 年(49 年目)	昭和 59 年(36 年目)
親校	鶴ヶ峰中学校	上白根中学校
小中一貫教育推進ブロック	四季の森小学校	上白根小学校、白根小学校

6 スケジュール

保護者・地域の代表者等からなる検討部会を設置し、令和元年9月頃から、今後の両校の方向性について具体的に検討していく予定です。

7 保護者説明会でいただいた主なご意見・ご質問

(凡例 ☆：ご意見・ご質問 ⇒：学校計画課より回答等)

■保護者の方からのご意見・ご質問

☆：教育委員会では2つの中学校の統合をお考えになっているということでしょうか。

⇒：検討部会で、上白根中学校の適正規模化に向けた具体的な検討を行う予定です。まずは、通学区域の変更等で適正規模化を図れるか検討部会で検討します。

☆：通学区域の変更や統合となった場合、通学距離が遠くなる地域について、他の学校（今宿中、鶴ヶ峰中）に行くという選択もあるのでしょうか。

⇒：部会での検討事項になりますが、通学区域の端が他校と近い場合に、指定校と他の学校を選択することができる特別調整通学区域を設定することも考えられます。

☆：統合時にどちらの校舎を使うのでしょうか。また、制服等も変わるのでしょうか。

⇒：仮に統合となった場合、どちらの校舎を使うかは、部会で検討していただきます。制服等については、両校の校長と相談しながら決めていくことになりますが、保護者や生徒にできるだけ負担をかけない対応が大前提であると考えています。

☆：今後は四季の森小も学校適正規模化の検討をするのでしょうか。

⇒：四季の森小は、一般学級数が10学級の小規模校となっていますが、一度統合した経緯（大池小とひかりが丘小）も踏まえ、また、団地再生の動きもありますので、しばらく児童数の推移を見守りたいと思っています。

☆：部会委員の構成として「保護者・地域の代表者等」とありますが、具体的にどういう方が該当するのですか。

⇒：地域代表は地区連合自治会・町内会長、保護者代表はPTA会長などとなります。また、それ以外に、関係校の学校長も部会委員としてご出席いただく予定です。なお、教育委員会は事務局として、資料の作成や部会運営等をします。

☆：第1回目の部会が9月頃からということですが、開催頻度はどのくらいで、結論が出るのはいつぐらいになるのでしょうか。

⇒：部会開催の頻度は、1か月から1か月半に1回程度の開催を予定しています。過去の事例だと、5回から多い地域で10回ほど部会を開催し、期間としては半年から1年程度で意見をまとめていただいています。

☆：学校統合という結論となった場合、統合までの期間はどれくらいですか。

⇒：仮に学校統合という結論になった場合、統合の時期も部会での検討事項になりますが、統合する前に、関係校の交流期間を約1年間設けており、その期間で子ども同士の交流や、保護者間の交流など、学校統合に向けた準備を行いますので、部会の設置から学校統合までは1年半から2年程度かかるのが一般的です。

☆：部会で検討していることについて、部会に参加していない人が意見を言う機会はあるのでしょうか。
⇒：部会の開催ごとに検討の内容や議論の内容等を部会ニュースとしてまとめ、保護者・地域の方に配布させていただきます。部会ニュースに教育委員会の連絡先を記載しますので、直接ご意見をいただければと思います。いただいた意見につきましては、次回の部会で紹介し、検討させていただきます。

■地域の方からのご意見・ご質問

☆：長所・短所のところで、少人数だとクラス替えができず、人間関係の問題が解決できないとあるが、人数が多ければ問題解決が早くなるのでしょうか。部活動ができるようになることはいいことだが、人間関係の問題を数でごまかしてしまうようにも思えてしまう。

⇒：人間関係の問題についてはクラス数が多ければ完全に解決できるとは思っていません。ただ、単級の場合には、対応策の一つのクラス替えという選択肢がなくなってしまうので、短所として記載させていただきました。この問題には現場の先生方が日々ご尽力されていますし、教育委員会として責任を逃れようというつもりではありません。

☆：個人的には、少人数教育は良い点が多いと思っています。人数が少ないことによる問題は部活かと思うのですが。

⇒：「少人数」と「小規模」では視点が異なり、「少人数」は1クラスの人数を少なくすることです。横浜市では小学校1・2年生では1クラス35人まで、小学校3年生から中学校3年生までは1クラス40人までとしています。今回は上白根中学校の規模が小さくなってしまっていることが課題です。また、部活動は小規模校における課題の一つとして認識しています。

☆：緑区の十日市場中は800人以上の生徒がいます。なぜ生徒数の多い学校ではなく、旭北中との検討なんですか。十日市場中との通学区域の調整も検討できるのではないのでしょうか。

⇒：旭北中は、上白根中の生徒数が増えたことに伴って分離新設された経緯があります。また、上白根中との距離も考慮しております。ただ、現在、緑区の武蔵中山台住宅の地域は、三保小と十日市場中の通学区域ですが、四季の森小と上白根中も選択できる特別調整通学区域となっていますので、検討部会において、緑区側も含めた通学区域の調整を検討していただければと考えています。

☆：統合後、上白根中学校の跡地利用はどのようになるのでしょうか。

⇒：仮に統合となり、旭北中学校を使用する場合、上白根中学校の跡地利用については、区役所と連携し、地域のご意見を聞きながら検討していきたいと考えています。

☆：学校規模適正化については、何よりも子どもたちが一番大事にされるべき話だと思います。一方で、ひかりが丘団地は横浜市の大規模団地再生のモデル地区になっている。旭区役所にも大規模団地再生担当がいるので、教育単独ではなくそういった方にも部会に入って検討を進めてもらいたいです。

⇒：旭区として団地再生事業に取り組んでいることは承知しています。区役所と連携を取りながら進めていきたいと考えています。



お問い合わせ先

横浜市教育委員会事務局 学校計画課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

電話 045-671-3252

FAX 045-651-1417

Eメール ky-asahi2019@city.yokohama.jp